

すべての子どもたちに 使いやすい教科書であるために

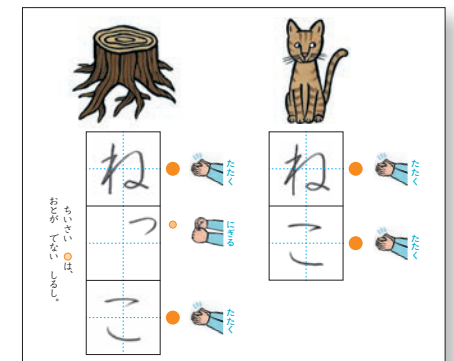
～「新編新しい国語」における特別支援教育への対応～

国立特別支援教育総合研究所 かいづ あきこ 海津亜希子

■不要なつまずきをさせない支援の重要性 文部科学省による調査で、通常の学級に在籍する児童の6.5%程度に特別な教育的支援を必要とする子どもたちがいるという結果が出ました(2012年)。特別支援教育は「特別な(場での)教育」ではないことを、この結果は物語っています。支援を要する子どもの中でLD(学習障害)を抱える子は、知的発達も平均もしくはそれ以上でありながら、読むこと、書くこと、計算することなどの特定の領域に落ち込みを見せます。彼らのつまずきは、ともすると目に見えにくく、それゆえ気づいた時には深刻な学習面のつまずきにまで及んでいたり、意欲や自信の低下といった二次的な問題まで生じさせてしまうことも残念ながら少なくありません。

つまずきの要因を探り、個に応じた支援を行うことはもちろん重要です。それに加えて、私は昨今、「つまずく前の、いわば先回りの支援」の重要性について痛感しています。教え方によって、つまずく必要のなかったつまずきを回避できる可能性があるのです。

■特殊音節の指導が重要なわけ LDを抱える子どもたちにとってつまずきの要因となるものの一つが、入門期で学習する促音(「っ」)や拗音(「きゃ」など)などの特殊音節です。特殊音節は他の仮名文字と異なり音と文字とが一对一に対応しないため、頭の中での音の操作が困難な子にとって習得が難しいと考えられます。語を正確に素早く読むことは文章の内容を読み解く力へとつながっていきます。特殊音節の読みという根本的なところでつまずかせないために、習得のための手だてが必要です。ここに焦点を当てて、特殊音節についての新たな指導法とアセスメントを取り入れて、



通常学級におけるさまざまなニーズに応じた指導・支援をしていくモデルとして研究・開発したのが**多層指導モデル MIM (Multilayer Instruction Model)**です。この指導法では、音と文字との結びつきを理解するために視覚化(マーク)と動作化を取り入れています。通常学級でMIMの実践を重ねたところ、特別な支援を必要とする子はもちろんのこと、その他の学力層の子どもたちにまで読む力、書く力の向上が見られました。

今回の「新編 新しい国語」には、こうした研究知見を活かした内容が十分に含まれています。すべての子どもが手にする教科書を通して、子どもに豊かな学びを提供しようとする姿勢が随所に感じられる、今までにありそうでなかった教科書だと思います。

MIM を実践された先生方の声

- 「視覚的なものと文字を合わせたり、動作を合わせて文字を読んだりしたことが、子どもには理解しやすかった。」
- 「動作で覚えるのは一年生にはかなり効果的。体を使ってリズムカルに練習でき、喜んで学習していた。」
- 「この指導の後は、動作化しながら書いたり、言葉を口に出して確認しながら書いたりする姿が見られた。」
- 「国語科以外の時間にも活用した。」
- 「1年のときにこの学習をした子どもたちは、2年になってからも表記の誤りが少ない。」
- 「子どもたちが興味を持って、独自の動作化を考え出していた。うちのクラスでは、両手で『つ』の形を作ることにした。」

ほかにも、教科書にはさまざまな工夫があります。

■改行位置の工夫

たんぼぼは じょうぶな
草です。はが ふまれたり、
つみとられたり しても、
また 生えて きます。ねが
生きて いて、新しい はを
つくり出すのです。

語のまとまりをとらえやすくするために、低学年においては、単語や文節が行をまたいで分かれないう改行位置を工夫しました。単元のねらいである文章の内容把握に至る前段階で不要なつまずきをしないよう配慮しています。

■行数表示の工夫

また、トノサマバツタは、自分の体の色がほこ色になるような場所をえらんですんでいるようです。トノサマバツタには、緑色のものとかわつ色のものがあります。野外で調べてみると、緑色の草むらにいるのは、ほとんどが緑色のバツタで、かわつ色のかれ草や落ち葉の上にいるのは、ほとんどがかわつ色のバツタです。

全学年において、物語・説明文教材の脚注罫線に、従来からある五行ごとの行数字に加えて、一行ごとに点(・)を付けました。これにより、行のとらえやすさが格段に向上しました。

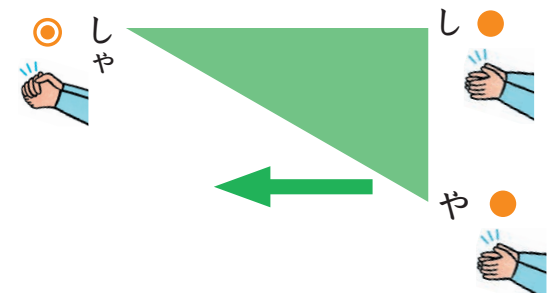
小さい「つ」は音が出ないから、小さい丸で表すよ。手をたたかずにグーの形で握るんだね。



のばす音は、たたいた手をそのまま下におろすんだよ。のびてる感じがよくわかるね。



ねじれる音は、二つの音が一つになっているから、てのひらを合わせてねじるようにして握るんだよ。マークも丸が二つ重なっているよ。



■見えない音を「見える」形にする 特殊音節の指導を考える際に重要なのは「音」の役割です。文字と音とが対応していない特殊音節。その対応関係、音のメカニズムを子どもに伝える必要性が出てきます。見えない音、すぐに消えてしまう音をいかに子どもたちにわかりやすく伝えるか。そこで考えたのが、音の特徴を目に見える形で表した**視覚化**（音の特徴を表したマーク）や**動作化**（音の特徴を表した動作）です。これにより、まず、音の違いや特徴をしっかりと認識し、その上で表記につなげていくことが可能になりました。



■自ら学べる術を伝える 視覚化や動作化を通じて、楽しみながら学習している子どもの様子も多くみられます。さらには、わからない時でも、「手をたたいて確認する術」を得たことが、子どもたちにとって大きかったと思います。つまずいた時に、どこに戻って、どう解決したらよいかを子どもに伝えることは重要です。「前に習ったでしょう。」「何回も書いて覚えましょう。」といった声かけは支援とは言えません。

■MIMの効果 このような指導法を通常の学級で取り入れた結果、学習面で苦戦しがちな子どもたちにはもちろんのこと、異なる学力層の子どもたちにまで効果がみられました。MIMを取り入れた児童群と平常授業を行った児童群を、特殊音節の表記に関する聴き取りテストや読書力検査（読字力、語彙力、文法力、読解力）を行って比較したところ、すべての項目においてMIMを取り入れた児童群が上回っていたのです。LDの子どもたちの学習を通して見えてきた「つまずきやすい課題」と「それを克服する指導法」が、他の子どもたちにとっての学びやすさにつながるようになってきたのです。

MIMについてもっと詳しくお知りになりたいときは

- 多層指導モデル MIM「読みのアセスメント・指導パッケージ」（書籍+教材） 学研教育みらい
- 通常の学級における多層指導モデル（MIM）の効果—小学1年生に対する特殊音節表記の読み書きの指導を通じて—（研究論文）

<http://ci.nii.ac.jp/naid/110007028200>（国立情報学研究所論文ナビゲータ CiNii）